

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成30年11月14日

【四半期会計期間】 第100期第2四半期(自 平成30年7月1日 至 平成30年9月30日)

【会社名】 明和産業株式会社

【英訳名】 MEIWA CORPORATION

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 大友 伸彦

【本店の所在の場所】 東京都千代田区丸の内三丁目3番1号

【電話番号】 03-3240-9011(代表)

【事務連絡者氏名】 主計財務部長 小林 敏弘
総務人事部長 西原 信幸

【最寄りの連絡場所】 東京都千代田区丸の内三丁目3番1号

【電話番号】 03-3240-9011(代表)

【事務連絡者氏名】 主計財務部長 小林 敏弘
総務人事部長 西原 信幸

【縦覧に供する場所】 明和産業株式会社大阪支店
(大阪市中央区今橋四丁目4番7号)
明和産業株式会社名古屋支店
(名古屋市中村区名駅四丁目5番28号)
株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第99期 第2四半期 連結累計期間	第100期 第2四半期 連結累計期間	第99期
会計期間	自 平成29年4月1日 至 平成29年9月30日	自 平成30年4月1日 至 平成30年9月30日	自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日
売上高 (百万円)	65,981	75,175	141,793
経常利益 (百万円)	1,147	1,367	2,918
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 (百万円)	818	1,064	2,068
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	1,864	1,271	3,080
純資産額 (百万円)	31,245	33,305	32,461
総資産額 (百万円)	66,423	72,652	73,709
1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	19.59	25.49	49.52
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	46.7	45.5	43.7
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	10	211	242
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	322	282	399
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	721	1,374	2,205
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (百万円)	3,711	4,860	6,257

回次	第99期 第2四半期 連結会計期間	第100期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自 平成29年7月1日 至 平成29年9月30日	自 平成30年7月1日 至 平成30年9月30日
1株当たり四半期純利益 (円)	7.62	10.41

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
4. 「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、前第2四半期連結累計期間及び前連結会計年度に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を遡って適用した後の指標等となっております。

2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社及び当社の関係会社が営む事業の内容について重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

なお、報告セグメントの名称及び区分を変更しております。詳細は、「第2 事業の状況」をご参照ください。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

なお、「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」（企業会計基準第28号 平成30年2月16日）等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、財政状態の状況については、当該会計基準等を遡って適用した後の数値で前連結会計年度との比較・分析を行っております。

(1) 財政状態及び経営成績の状況

当第2四半期連結累計期間における世界経済は、米国の景気は好調に推移したものの、ユーロ圏及び英国の景気は減速傾向となりました。また、中国は依然として高い成長率を維持しており、アジア新興国も内需の拡大や輸出の増加により成長が続きました。一方、我が国経済においては、景気は回復基調で推移しました。

このような状況の下、当社グループは2019年度までの3ヶ年中期経営計画「Next Stage 2019」を掲げ、ポートフォリオマネジメントを推し進め事業推進力の強化に取り組んでまいりました。

その結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は、751億7千5百万円と前年同期の13.9%にあたる91億9千3百万円の増収となりました。また、営業利益は11億6千万円と前年同期の64.7%にあたる4億5千5百万円の増益、経常利益については、13億6千7百万円と前年同期の19.2%にあたる2億2千万円の増益となりました。親会社株主に帰属する四半期純利益については、10億6千4百万円と前年同期の30.1%にあたる2億4千6百万円の増益となりました。

これらの結果、当第2四半期連結累計期間の1株当たり四半期純利益は25.49円となりました。

なお、主な要因は以下のとおりであります。

- ・売上高については、全ての報告セグメントが前年を上回ったため、増収になりました。
- ・営業利益については、販売費及び一般管理費が若干増加したものの、売上高の増加により売上総利益が大幅に増加した結果、増益となりました。
- ・経常利益については、受取配当金および持分法による投資利益の減少や為替差損の増加等があったものの、営業利益が増加した結果、増益となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

なお、第1四半期連結会計期間より、当社の組織を再編し、商品カテゴリーを切り口とした本部・グループ制（化学品本部、石油製品本部、機能材料本部、合成樹脂本部、機能建材本部の5本部）から、相互に関わりある事業群を基軸とした事業部門・事業部制（第一事業部門、第二事業部門、第三事業部門の3事業部門及び事業部門から独立した自動車事業部）に変更を行いました。この組織体制に伴い当社グループの業績管理区分も変更し、報告セグメントを、従来の「化学品関連事業」「石油製品関連事業」「機能材料関連事業」「合成樹脂関連事業」「機能建材関連事業」の区分から、「第一事業」「第二事業」「第三事業」「自動車事業」といたしました。

セグメントの名称	主な事業	事業内容及び主な取扱商品
第一事業	電池材料事業 資源・環境ビジネス事業 樹脂・難燃剤事業 医薬関連開発事業	電池材料 レアアース・レアメタル、環境関連 合成樹脂・難燃剤 原薬・医薬中間体
第二事業	石油製品事業 石油ビジネス開発事業	潤滑油、ベースオイル、添加剤 海外事業開発
第三事業	高機能素材事業 機能建材事業	化学品原料、印刷材料、合成樹脂加工品 機能建材
自動車事業	自動車事業	自動車部品関連事業

また、従来当社グループは、営業利益に受取利息及び支払利息を調整した金額をセグメント利益としておりましたが、業績管理指標を経常利益に移行したことに伴い、第1四半期連結会計期間より当社グループのセグメント利益を「経常利益」に変更いたしました。

なお、前第2四半期連結累計期間のセグメント情報については、変更後の区分方法により作成したものを記載しております。

第一事業

第一事業の売上高は、191億9千6百万円と前年同期の22.0%にあたる34億6千1百万円の増収、セグメント利益につきましては、3億8千1百万円と前年同期の45.1%にあたる1億1千8百万円の増益になりました。

これは主に各取引が以下の通り推移した結果によるものです。

- ・電池材料事業は、自動車用などの電池材料が好調に推移しました。
- ・資源・環境ビジネス事業は、環境関連は前年同期並に推移し、資源関連は好調に推移しました。
- ・樹脂・難燃剤事業は、前年同期並になりました。
- ・医薬関連開発事業は、新規事業の開拓に注力しました。

第二事業

第二事業の売上高は、205億8千8百万円と前年同期の26.9%にあたる43億6千7百万円の増収、セグメント利益につきましては、3億9千6百万円と前年同期の16.7%にあたる5千6百万円の増益になりました。

これは主に各取引が以下の通り推移した結果によるものです。

- ・石油製品事業は、潤滑油及びベースオイルは前年同期並に推移し、添加剤は引き続き好調に推移しました。また、中国潤滑油事業は建機等の主要対面業界の回復及び空調機業界の伸長があったため、好調に推移しました。
- ・石油ビジネス開発事業は、新規事業の開拓に注力しました。

第三事業

第三事業の売上高は、339億3千8百万円と前年同期の3.7%にあたる12億1千4百万円の増収、セグメント利益につきましては、3億4千2百万円と前年同期の2.3%にあたる8百万円の減益になりました。

これは主に各取引が以下の通り推移した結果によるものです。

- ・高機能素材事業は、印刷材料は順調に推移し、化学品原料及び合成樹脂加工品が前年同期並になった結果、前年同期並に推移しました。
- ・機能建材事業は、断熱材は順調に推移したものの、防水資材は低調に推移しました。
- ・全体として、売上高は増加したものの販売管理費の増加等が影響し、セグメント利益につきましては低調に推移しました。

自動車事業

自動車事業の売上高は、12億1千9百万円と前年同期の24.8%にあたる2億4千2百万円の増収、セグメント利益につきましては、2億1千2百万円と前年同期の17.8%にあたる4千5百万円の減益になりました。

これは主に以下の通り推移した結果によるものです。

- ・売上高は増加したものの持分法による投資利益の減少により、セグメント利益につきましては低調に推移しました。

当社グループの財政状態は、次のとおりであります。

当第2四半期連結会計期間末における総資産は、726億5千2百万円と前年度末の1.4%にあたる10億5千6百万円の減少となりました。また、負債は393億4千7百万円と前年度末の4.6%にあたる19億円の減少、純資産については、333億5百万円と前年度末の2.6%にあたる8億4千3百万円の増加となりました。

この結果、自己資本比率は45.5%となりました。

なお、主な要因は以下のとおりであります。

- ・流動資産が537億5千5百万円と前年度末の2.9%にあたる15億8千3百万円の減少となっておりますが、これは、主に現金及び預金が仕入債務の支払や借入金の返済、法人税の支払、配当金の支払等により減少したことによるものであります。これにより、流動負債では、仕入債務や借入金の前年度末に比べて減少しております。
- ・固定資産が188億9千6百万円と前年度末の2.9%にあたる5億2千6百万円の増加となっておりますが、これは、有形固定資産を一部処分した一方、主に保有する株式の市場価格が上昇したことに伴うその他有価証券の評価額の増加と、持分法による投資利益により、投資有価証券が増加したためであります。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物は、48億6千万円と前年同期末の30.9%にあたる11億4千8百万円の増加となりました。

当第2四半期連結累計期間における営業活動によるキャッシュ・フローは2億1千1百万円と資金が増加し、前年同期の1,991.3%にあたる2億円の増加となりました。また、投資活動によるキャッシュ・フローは2億8千2百万円と資金が減少して前年同期の12.5%にあたる4千万円の増加、財務活動によるキャッシュ・フローは13億7千4百万円と資金が減少して前年同期の90.5%にあたる6億5千3百万円の減少となりました。

その主要な原因は、以下のとおりであります。

- ・営業活動によるキャッシュ・フローは、仕入債務や法人税の支払がありました。業績が堅調に推移したことにより、資金の増加となりました。内訳は、税金等調整前四半期純利益14億4百万円のうち、非現金収支等を調整した後の資金の増加13億8千9百万円及び営業債権の減少等による4億3千5百万円の資金増に対し、仕入債務や法人税の支払等による16億1千3百万円の資金減であります。
- ・投資活動によるキャッシュ・フローは、主に新規の貸付けや、事務所の改装、貸与資産の購入等の固定資産の取得、株式の取得等により、資金は減少となりました。内訳は、有形固定資産の売却等による2億2千1百万円の資金増と、貸付け及び固定資産の取得、投資有価証券の取得等による5億4百万円の資金減であります。
- ・財務活動によるキャッシュ・フローが資金の減少となった要因は、主に運転資金のための短期借入金を返済したほか、配当金の支払によるものであります。

当社グループにおける資金の使途は、主に商品の仕入れや人件費の支払いのための運転資金のほか、税金及び配当金の支払いであり、これらの資金需要に対して、営業活動によるキャッシュ・フローから獲得した自己資金と金融機関からの借入金を充てております。

当社グループは、資金効率の向上と利息費用の低減のため、必要資金の一部をグループ・ファイナンスにより賄っており、当第2四半期連結会計期間末の有利子負債が圧縮されております。

3 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	100,000,000
計	100,000,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成30年9月30日)	提出日現在発行数(株) (平成30年11月14日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可 金融商品取引業協会名	内容
普通株式	41,780,000	41,780,000	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数 100株
計	41,780,000	41,780,000		

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成30年9月30日		41,780		4,024		2,761

(5) 【大株主の状況】

平成30年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 (自己株式を 除く。)の総 数に対する所 有株式数の割 合(%)
三菱商事株式会社	東京都千代田区丸の内二丁目3番1号	13,806	33.06
日本マスタートラスト信託銀行株式会社	東京都港区浜松町二丁目11番3号	4,676	11.20
A G C 株式会社	東京都千代田区丸の内一丁目5番1号	3,849	9.22
BBH FOR FIDELITY LOW-PRICED STOCK FUND (常任代理人 株式会社三菱UFJ銀行)	245 SUMMER STREET BOSTON,MA 02210 U.S.A (東京都千代田区丸の内二丁目7番1号)	1,717	4.11
東京海上日動火災保険株式会社	東京都千代田区丸の内一丁目2番1号	1,557	3.73
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社	東京都中央区晴海一丁目8番11号	1,515	3.63
明治安田生命保険相互会社	東京都千代田区丸の内二丁目1番1号	1,463	3.51
BBH FOR FIDELITY PURITAN TR: FIDELITY SR INTRINSIC OPPORTUNITIES FUND (常任代理人 株式会社三菱UFJ銀行)	245 SUMMER STREET BOSTON,MA 02210 U.S.A (東京都千代田区丸の内二丁目7番1号)	1,300	3.11
株式会社三菱UFJ銀行	東京都千代田区丸の内二丁目7番1号	956	2.29
三菱UFJ信託銀行株式会社	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号	840	2.01
計		31,682	75.86

(注) 1. 上記の所有株式数のうち信託業務に係る株式数は、次のとおりであります。

日本マスタートラスト信託銀行株式会社 4,676千株

日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 1,515千株

2. 上記の日本マスタートラスト信託銀行株式会社が所有する株式数のうち4,079千株は、三菱ケミカル株式会社の退職給付信託口であり、三菱ケミカル株式会社が議決権に関する指図権を有しております。

(6) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成30年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 16,700		
完全議決権株式(その他)	普通株式 41,757,900	417,579	
単元未満株式	普通株式 5,400		一単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	41,780,000		
総株主の議決権		417,579	

(注) 「単元未満株式」の欄には、当社所有の自己株式73株が含まれております。

【自己株式等】

平成30年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
明和産業株式会社	東京都千代田区丸の内 三丁目3番1号	16,700		16,700	0.04
計		16,700		16,700	0.04

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（平成30年7月1日から平成30年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成30年4月1日から平成30年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成30年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	6,257	4,860
受取手形及び売掛金	1,541,761	1,541,539
商品	6,589	6,620
その他	930	910
貸倒引当金	198	173
流動資産合計	55,339	53,755
固定資産		
有形固定資産	856	703
無形固定資産	253	196
投資その他の資産		
投資有価証券	16,296	16,964
その他	1,107	1,167
貸倒引当金	143	135
投資その他の資産合計	17,260	17,996
固定資産合計	18,370	18,896
資産合計	73,709	72,652
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	29,836	28,922
短期借入金	5,282	4,536
1年内返済予定の長期借入金	54	43
未払法人税等	459	303
賞与引当金	526	519
その他	602	581
流動負債合計	36,762	34,907
固定負債		
長期借入金	654	637
役員退職慰労引当金	19	20
退職給付に係る負債	931	933
その他	2,880	2,848
固定負債合計	4,485	4,440
負債合計	41,248	39,347

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成30年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,024	4,024
資本剰余金	2,761	2,761
利益剰余金	21,438	22,085
自己株式	4	4
株主資本合計	28,220	28,867
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	4,119	4,306
繰延ヘッジ損益	9	2
為替換算調整勘定	396	340
退職給付に係る調整累計額	499	449
その他の包括利益累計額合計	4,007	4,200
非支配株主持分	233	237
純資産合計	32,461	33,305
負債純資産合計	73,709	72,652

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

	(単位：百万円)	
	前第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年9月30日)
売上高	65,981	75,175
売上原価	61,000	69,638
売上総利益	4,981	5,536
販売費及び一般管理費	4,276	4,376
営業利益	704	1,160
営業外収益		
受取配当金	144	84
持分法による投資利益	369	317
その他	39	52
営業外収益合計	553	454
営業外費用		
支払利息	44	72
為替差損	21	117
その他	43	57
営業外費用合計	110	246
経常利益	1,147	1,367
特別利益		
固定資産売却益	-	49
投資有価証券売却益	0	-
特別利益合計	0	49
特別損失		
固定資産除却損	23	12
その他	0	0
特別損失合計	23	13
税金等調整前四半期純利益	1,124	1,404
法人税、住民税及び事業税	308	374
法人税等調整額	11	47
法人税等合計	297	327
四半期純利益	826	1,076
非支配株主に帰属する四半期純利益	8	12
親会社株主に帰属する四半期純利益	818	1,064

【四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年9月30日)
四半期純利益	826	1,076
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	684	230
繰延ヘッジ損益	17	11
為替換算調整勘定	179	127
退職給付に係る調整額	83	54
持分法適用会社に対する持分相当額	72	25
その他の包括利益合計	1,037	195
四半期包括利益	1,864	1,271
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,852	1,257
非支配株主に係る四半期包括利益	12	14

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	1,124	1,404
減価償却費	71	95
のれん償却額	6	5
負ののれん償却額	0	0
持分法による投資損益(は益)	316	262
貸倒引当金の増減額(は減少)	46	31
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	94	80
役員退職慰労引当金の増減額(は減少)	1	1
賞与引当金の増減額(は減少)	10	6
受取利息及び受取配当金	148	88
支払利息	44	72
投資有価証券売却損益(は益)	0	-
固定資産売却損益(は益)	0	49
売上債権の増減額(は増加)	818	2
たな卸資産の増減額(は増加)	1,106	69
仕入債務の増減額(は減少)	1,552	804
その他の流動資産の増減額(は増加)	114	258
その他投資等の増減額(は増加)	2	4
その他の流動負債の増減額(は減少)	5	44
その他の固定負債の増減額(は減少)	16	96
その他	8	145
小計	426	706
利息及び配当金の受取額	152	90
利息の支払額	43	67
法人税等の支払額	528	521
法人税等の還付額	2	2
営業活動によるキャッシュ・フロー	10	211

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年9月30日)
投資活動によるキャッシュ・フロー		
投資有価証券の取得による支出	17	2
投資有価証券の売却による収入	0	-
関係会社株式の取得による支出	-	52
出資金の払込による支出	25	-
有形固定資産の取得による支出	212	97
有形固定資産の売却による収入	0	206
無形固定資産の取得による支出	18	16
短期貸付けによる支出	83	255
短期貸付金の回収による収入	57	13
長期貸付けによる支出	1	79
長期貸付金の回収による収入	2	2
その他	24	0
投資活動によるキャッシュ・フロー	322	282
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額（は減少）	653	914
長期借入れによる収入	500	-
長期借入金の返済による支出	1,525	27
配当金の支払額	334	417
非支配株主への配当金の支払額	11	10
その他	4	4
財務活動によるキャッシュ・フロー	721	1,374
現金及び現金同等物に係る換算差額	4	49
現金及び現金同等物の増減額（は減少）	1,029	1,396
現金及び現金同等物の期首残高	4,741	6,257
現金及び現金同等物の四半期末残高	3,711	4,860

【注記事項】

(追加情報)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。

(四半期連結貸借対照表関係)

1 売上債権の流動化

当社は、受取手形及び売掛債権の流動化を行っており、当第2四半期連結会計期間末の金額は次のとおりであります。

	(単位：百万円)	
	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成30年9月30日)
受取手形譲渡額	54	56
売掛金譲渡額	21	19
売掛金流動化に伴う遡及義務額	7	7

2 保証債務

連結会社以外の会社の金融機関等からの借入金に対して、次のとおり債務保証を行っております。

		(単位：百万円)	
前連結会計年度 (平成30年3月31日)		当第2四半期連結会計期間 (平成30年9月30日)	
非連結子会社及び関連会社の 銀行借入等	96	非連結子会社及び関連会社の 銀行借入等	99
従業員住宅ローン	0	従業員住宅ローン	-
計	96	計	99

3 受取手形割引高

	(単位：百万円)	
	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成30年9月30日)
受取手形割引高	-	5

4 当座貸越契約

当社グループは運転資金の効率的な調達を行うため主要取引金融機関と当座貸越契約を締結しております。この契約に基づく当第2四半期連結会計期間末における借入未実行残高は次のとおりです。

	(単位：百万円)	
	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成30年9月30日)
当座貸越契約の総額	4,650	4,650
借入実行残高	-	-
差引額	4,650	4,650

5 四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理しております。

なお、当第2四半期連結会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の四半期連結会計期間末日満期手形が、四半期連結会計期間末残高に含まれております。

	(単位：百万円)	
	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成30年9月30日)
受取手形	767	721

(四半期連結損益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

(単位：百万円)		
	前第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年9月30日)
給料手当	1,334	1,345
退職給付費用	193	148
賞与引当金繰入額	300	320
貸倒引当金繰入額	47	29
役員退職慰労引当金繰入額	1	1

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は次のとおりであります。

(単位：百万円)		
	前第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年9月30日)
現金及び預金	3,711	4,860
預入期間が3か月を超える定期預金	-	-
現金及び現金同等物	3,711	4,860

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成29年6月27日 定時株主総会	普通株式	334	8.00	平成29年3月31日	平成29年6月28日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自平成30年4月1日 至平成30年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成30年6月26日 定時株主総会	普通株式	417	10.00	平成30年3月31日	平成30年6月27日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)
 【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 平成29年4月1日 至 平成29年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント					その他 (注)	合計
	第一事業	第二事業	第三事業	自動車事業	計		
売上高							
外部顧客への売上高	15,735	16,221	32,723	976	65,656	325	65,981
セグメント間の内部 売上高又は振替高	36	29	29	2	98	4	103
計	15,771	16,250	32,753	979	65,755	329	66,085
セグメント利益 又は損失()	262	339	350	258	1,211	29	1,182

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、硝子製品事業を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の内容(差異調整に関する事項)

(単位：百万円)

利益又は損失	金額
報告セグメント計	1,211
「その他」の区分の利益又は損失()	29
セグメント間取引消去	32
全社費用(注)	67
四半期連結損益計算書の経常利益	1,147

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない本社経費であります。

当第2四半期連結累計期間(自 平成30年4月1日 至 平成30年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント					その他 (注)	合計
	第一事業	第二事業	第三事業	自動車事業	計		
売上高							
外部顧客への売上高	19,196	20,588	33,938	1,219	74,942	232	75,175
セグメント間の内部 売上高又は振替高	36	23	26	-	86	0	86
計	19,233	20,612	33,964	1,219	75,028	233	75,262
セグメント利益 又は損失()	381	396	342	212	1,332	22	1,309

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、硝子製品事業を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：百万円)

利益又は損失	金額
報告セグメント計	1,332
「その他」の区分の利益又は損失()	22
セグメント間取引消去	22
全社費用(注)	35
四半期連結損益計算書の経常利益	1,367

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない本社経費であります。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

第1四半期連結会計期間より、業績管理区分を変更したことに伴い、事業セグメントの区分方法を見直し、報告セグメントを従来の「化学品関連事業」「石油製品関連事業」「機能材料関連事業」「合成樹脂関連事業」「機能建材関連事業」から、「第一事業」「第二事業」「第三事業」「自動車事業」に変更しております。

また、併せて事業セグメントの利益又は損失の算定方法を、従来の営業利益に受取利息と支払利息を加減した数値から、経常利益ベースに変更しております。

なお、前第2四半期連結累計期間のセグメント情報については、変更後の区分方法と利益又は損失の算定方法により作成したものを記載しております。

詳細につきましては、「第2 事業の状況 2 経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析」をご参照ください。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年9月30日)
1株当たり四半期純利益	19円59銭	25円49銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益(百万円)	818	1,064
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益(百万円)	818	1,064
普通株式の期中平均株式数(千株)	41,763	41,763

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成30年11月13日

明和産業株式会社
取締役会 御中

有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 早川英孝 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 西川福之 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている明和産業株式会社の平成30年4月1日から平成31年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（平成30年7月1日から平成30年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成30年4月1日から平成30年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、明和産業株式会社及び連結子会社の平成30年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。